

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 行動モデルに基づく過信の抑止
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名 (研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

武田 一哉 (名古屋大学大学院情報科学研究科 教授)

主たる共同研究者

三輪 和久 (名古屋大学大学院情報科学研究科 教授)

松尾 直司 (富士通 (株) エンタテインメント戦略本部先進開発統括部 統括部長付)

江川万寿三 (株) デンソー研究開発 3 部 開発 4 課長) (平成 24 年 1 月 ~)

3. 事後評価結果

○総合評価コメント:

本研究では、「過信の抑止」という独自性の高い課題への挑戦が行われた。

研究代表者らは、制御モデルと確率モデルを統合する枠組みを導入し、大規模な信号コーパスを用いて人間行動の情動的側面と物理的側面の両面を統合的に扱う数理モデリング手法により、人間行動を特徴づけるパラメータを合理的に決定できることを示すとともに、過信に伴う行動変化を **Misuse/Disuse** という視点から説明する独自のモデルの構築に成功した。視線計測技術を用いた注意レベルの定量評価法の開発にも成功した。

振り込め詐欺抑止技術と、中間評価を受けて重点的に推進した自動運転に関する技術という応用研究でも実用レベルの技術開発が行われた。振り込め詐欺のモデル化では、企業との連携により、振り込め詐欺防止サービスとして事業化が進められた。運転のモデル化では、企業と連携し、実用化を目指した取り組みが行われた。研究で収集された多人数の複数行動のデータを、「自動車運転コーパス」と「日常生活行動コーパス」として整備・公開するとともに、経産省の自動運転プロジェクトへの参画にもつながった。戦略目標の観点からは、過信を切り口として人間と技術の調和に関して世界を先導する成果が基礎から応用にわたってあげられた点が評価される。今後は、人の慣れや適応性をさらに考慮し、社会的受容性など多方面からの評価を行うことが期待される。